

第3分科会 「カロム交流会」

- カロムは、日本のごく一部の地方でしか普及しておらず、中川ひろたかさんが全国に進めたいと考えていました。そんな時に、東日本大震災が起き、中川さんがカロムを東北の子ども達に贈ろうと考えたのがきっかけです。東北の地元で作りたいと考え、福島県のいわき市に声をかけました。それは、大工さんに仕事が出来て東北の「経済」が少し動き、産業復興の足がかりになる小さいけれど大きな力でした。その理念のもと動き、みんなとのともだちカロムが完成しました。
- カロムの基本はおはじき。ひじょうにアナログ。正確には指ではじく技術を要します。運やつきではなく、練習が必要なゲームです。練習して上手になる。そういう機会は、子ども達にもあった方がいい。カロムは、いろんな世代の人達が、一緒に遊べる、多世代コミュニケーションなのです。

- ①最初にカロムの説明をし、その後どんな遊びかを映像を見て、ゲームの内容やルールを知らせました。
- ②全国大会に出た子ども2人に実際にやってもらい、皆で見学しました。
- ③5グループ5人チームに分かれ総当たりのリーグ戦をしたり、シングルスとダブルスもやってみました。

- ・非常に盛り上がり、やっていく内に皆本気になり、全員がとても楽しめたゲームとなりました。
- ・時間が足りず、コマを減らしたり、時間を短くしましたが、その中でも集中してやる事が出来ました。

◆感想

- ・デモンストレーションで子どもがやったので、いけるかなと思ったけど、思ったより難しかった。
- ・とても面白くてはまりました。またやりたいです。
- ・大人も本気になれるゲームでした。



- ・スタッフで練習してみました。



- ・この盤を使ってやりました。



・代表者がルールや概要を説明をしました。



・みんな真剣に聞いていましたよ。



・この通り真剣にやっています。



・全員本気になりました。

○まとめ

初めて経験した遊びですが、すぐにルールを覚え、試合をしていく度に熱くなれるゲームです。時間があればもう少し時間を延ばしたり、決勝トーナメントまで行いたかったと思います。子ども達の知育や東北の復興にもつながるので、ぜひ興味のある方はご購入検討お願いします。